

## 令和7年度全国学力学習状況調査の結果

## 京都市立川岡東小学校

4月17日に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。今年度は、国語・算数・理科の3教科が実施されました。同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も引き続き実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 総合結果（国語科・算数科・理科）

京都市の正答率は、国語・算数・理科の3教科とも全国を上回り、全国でも高い正答率を続けています。京都府の正答率も全国の正答率を上回っています。本校では、3教科とも、全国だけでなく、京都市の正答率も上回るという高い結果となっています。

また、3教科とも「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらの観点も全国だけでなく、京都市の正答率を上回るという結果となっています。年々高まる学習に向かう姿勢や学習の取り組みへの意欲が一つの結果となって表れてきているのではないかと考えています。

## 国語科より

国語科では、正答率を確認すると「知識・技能」に比べて、「思考・判断・表現」が少し弱い傾向があります。もう少し詳しく確認すると、文章の全体を考えて要旨を把握するとか、集めた材料を分類したり関連付けたりして伝えたい内容を整理するといったところに弱さがあります。全国的にも正答率が低い傾向の内容ですが、全体の正答率から考えると落ち込みが大きいと思われます。その反面、文章の構成を考えたり、自分の思いや考えが伝わりやすいように工夫したり、必要な情報を見つめたりするところは、全国に比べて10ポイント以上の正答率となって、安定しています。

話す聞くといった活動を様々な場面で取り入れ、ペアやグループでの話し合い、また、自分の思いや考えを伝えあう活動機会が増えていることが一つの成果になっているのかもしれません。ただ、よりよく伝わるように複数の資料を整理したり有効に活用したりするといったことにはまだまだ弱さが見られます。テーマに沿つ自分やグループの考えを多岐にわたる資料から整理、分類してよりよく伝えあうような学習機会をますます取り入れていく必要だろうと考えます。また、話しきる、表現しきる、といった徹底した取り組みも大切になってくると考えます。

## 算数科より

算数科も国語科と同じような傾向となっており、「知識・技能」に比べて、「思考・判断・表現」の正答率が少し下がります。特に、算数では顕著に「思考・判断・表現」にかかる正答率が京都府の正答率より下がるところがいくつか見られました。また、本校の特徴として、図形領域に落ち込みが見られるのですが、今回も前回に続いて他の領域とそんなに差はなく、それ以上にデータの活用に課題が見られました。相対的に記述式の問題に対する正答率が下がりました。

本校の傾向もあるのですが、習得した知識をうまく活用して考えられていない、数学的な思考が十分にできていないのではないかと考えられます。問い合わせに対する答えを求めるることはできても、その解答の仕方を与えられた条件をもとに説明するという点が弱い面です。また、いくつかある情報から必要な情報を選択して、他者にわかりやすく伝えるという点も弱い面となっています。知識・技能はある一定定着ができるので、今後は、わかったことや自分の考えを他者に伝えあうような学習機会をますます意図的に取り入れ能動的な活動機会が必要かと考えます。

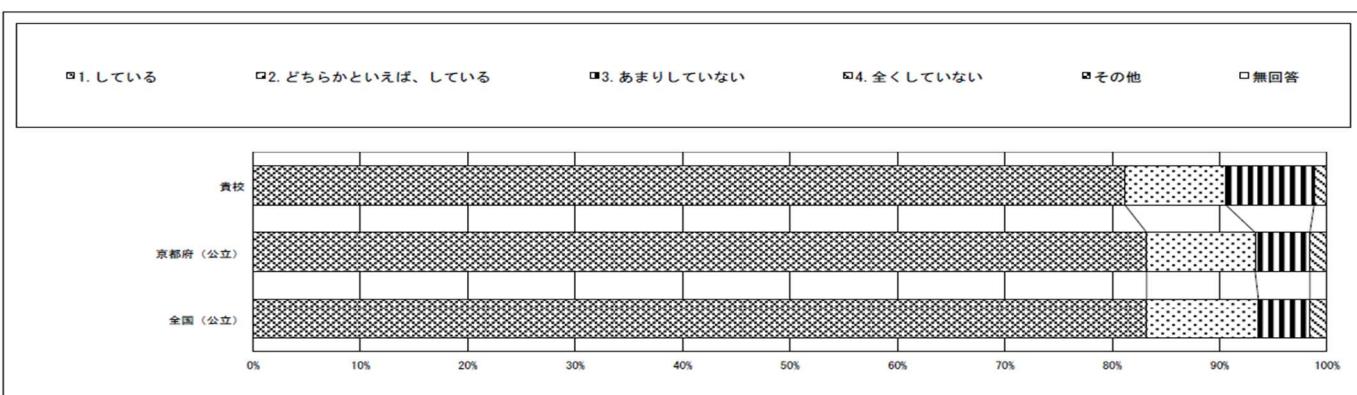
## 理科より

理科に関しては、3年ごとの調査なので、毎年の比較ができませんが、前回の調査に比べて、正答率は高まっています。4つの領域で調査されていますが、唯一、「粒子」に関する領域が全国の正答率よりも下がるという結果でした。電気を通すものや、水の温まり方などに関する内容に弱さが見られました。特に、水が温度でどのように変化するのか、といった内容に弱さが見られました。ただ、全体的に基礎基本など学習した内容がしっかりと定着していると考えられます。

理科の授業においては、学習問題を共通理解し、根拠をもとに予想を立てて、その検証をして、結果をまとめるという学習の流れを3年生から意識をしながら取り組んでいます。また、結果の根拠を大切にしてノートやワークシートにまとめたりしていることが成果につながっているのではないかと考えます。実験を通して結果をしめすだけでなく、なぜ、そのような結果になったのかをまとめたり、自分なりのノートを作成したりするなどで、確実な理解につながっているのかもしれません。

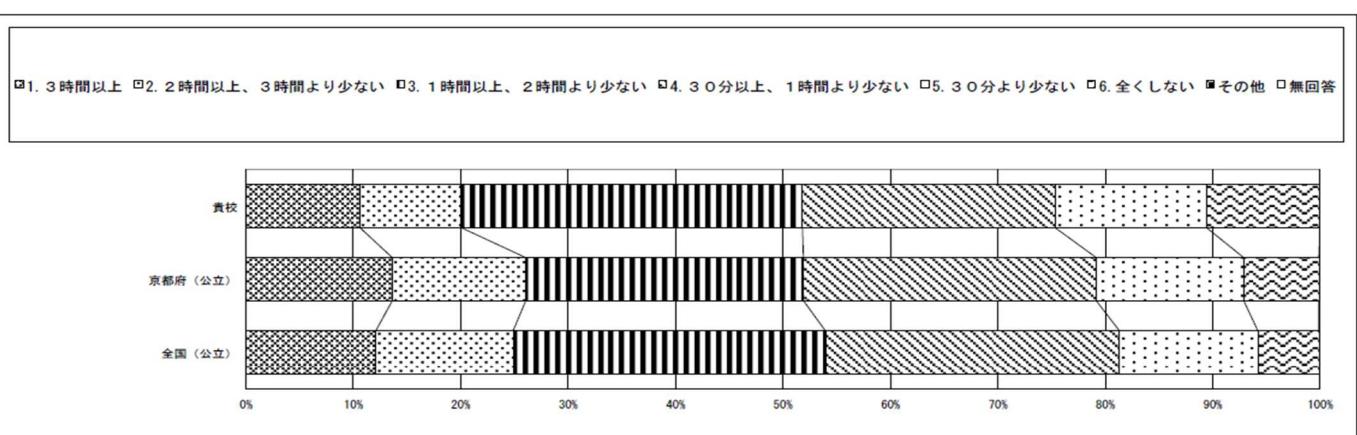
## 児童質問紙調査から

### Q 朝食を毎日食べていますか

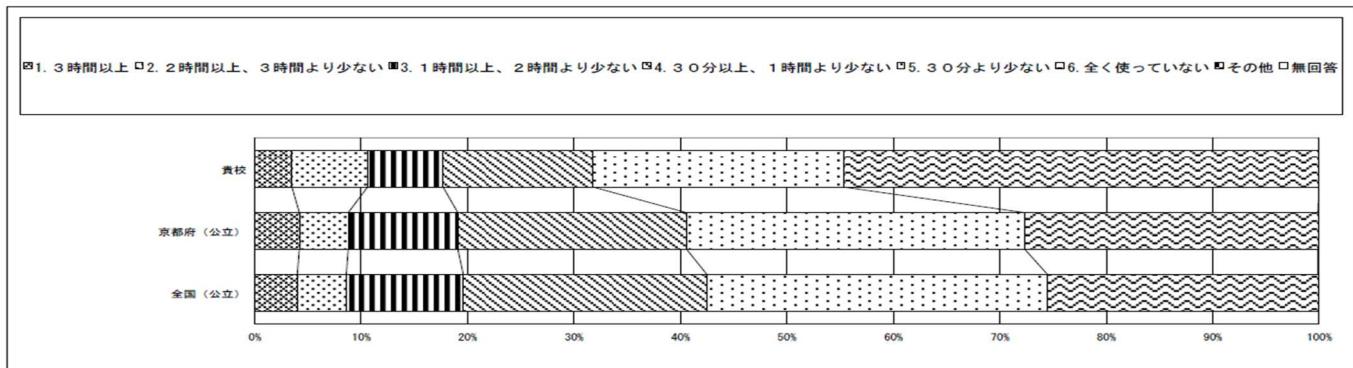


8割の児童は、安定してしっかりと朝食を食べていると答えていますが、全国や京都府に比べて、朝食の摂食率はあまりよくない傾向です。このことはいきいき生活チェックでもその傾向がみられます。生活習慣が安定していない、あるいは、寝るのが遅くなり、朝の時間にゆとりがないのではないかという傾向が感じられます。しっかりとした生活習慣は、安定した学習環境につながり、そのことが、学力の向上につながると考えます。寝る時刻やスマホやタブレットの視聴時間などとの関連もありますが、まずは、朝食からでも安定した生活習慣を確立できるようにすることが大切なのではないかと考えます。

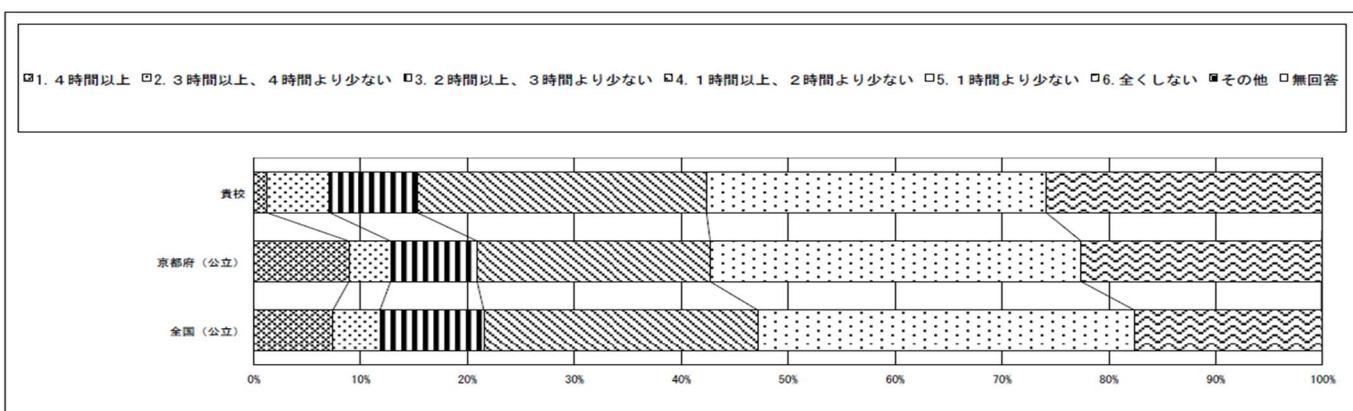
### Q 学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）。



Q 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



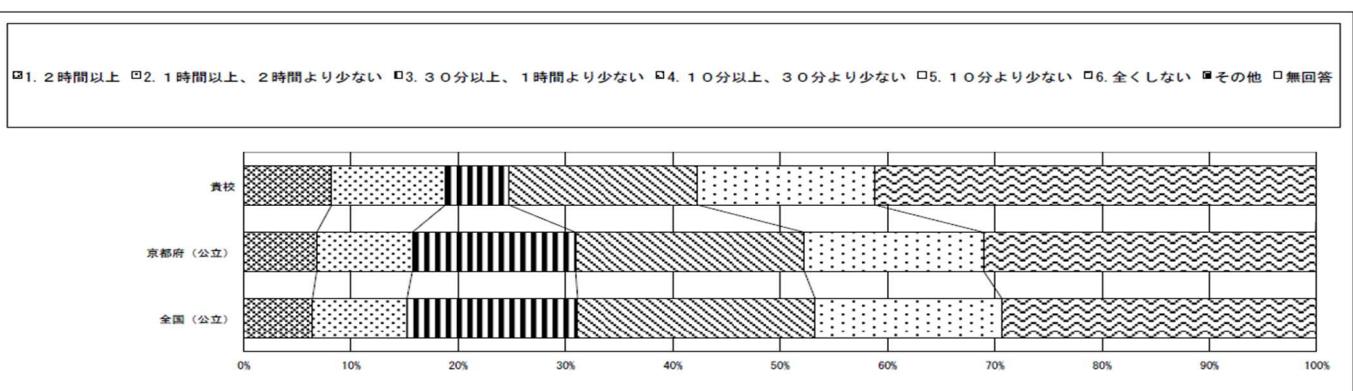
Q 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



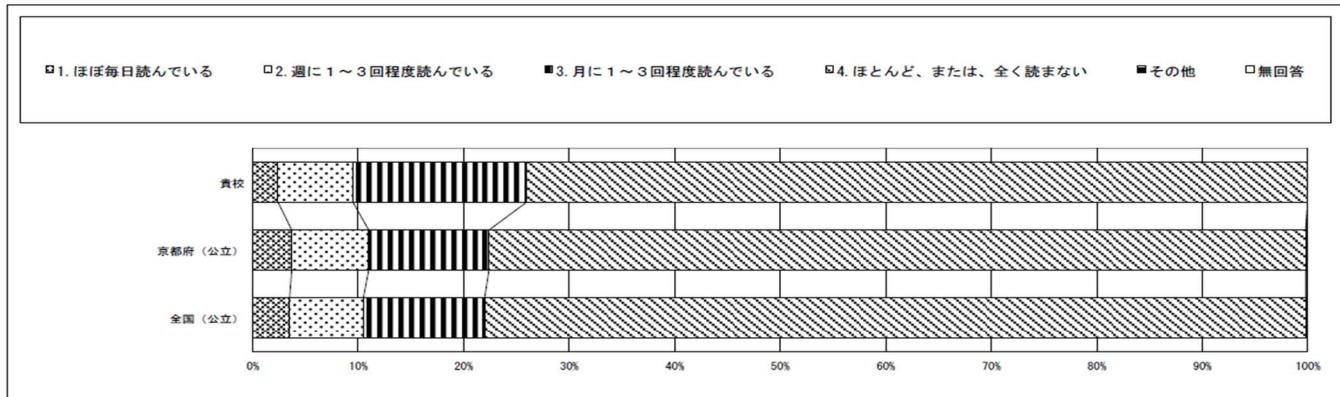
上記の3つの内容は、家庭での学習状況に関する調査となります。全国や京都府に比べるとまだ家庭学習の時間は少ないということがわかります。ただ、昨年度までに比べて、家庭学習の時間が増えている傾向にあります。平日も土日もあまり学習時間は変わりませんが、1時間程度は毎日取り組もうとしている児童が増えていることがわかります。その意識が、今回の結果の成果につながっているのかもしれません。

他に、ICTを活用した学習はほとんど家庭では行っていない傾向がみられます。しかし、タブレットやスマートといったものを触っている、見ている児童はたいへん多いのが生活チェックからでも明らかです。特に、ゲームやユーチューブなどで娯楽として活用することが、明らかに多いのでしょう。今後、ICT機器を学習に活用する機会は増えてくるでしょう。ICTの有効な活用方法はこれから求められる力と関連してくると思います。

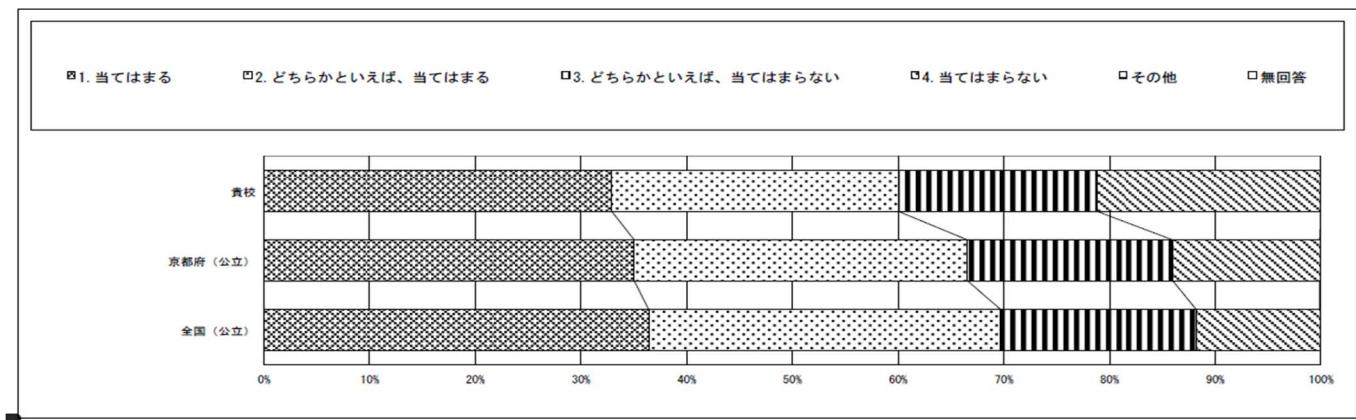
Q 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書していますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



## Q 新聞を読んでいますか



## Q 読書は好きですか

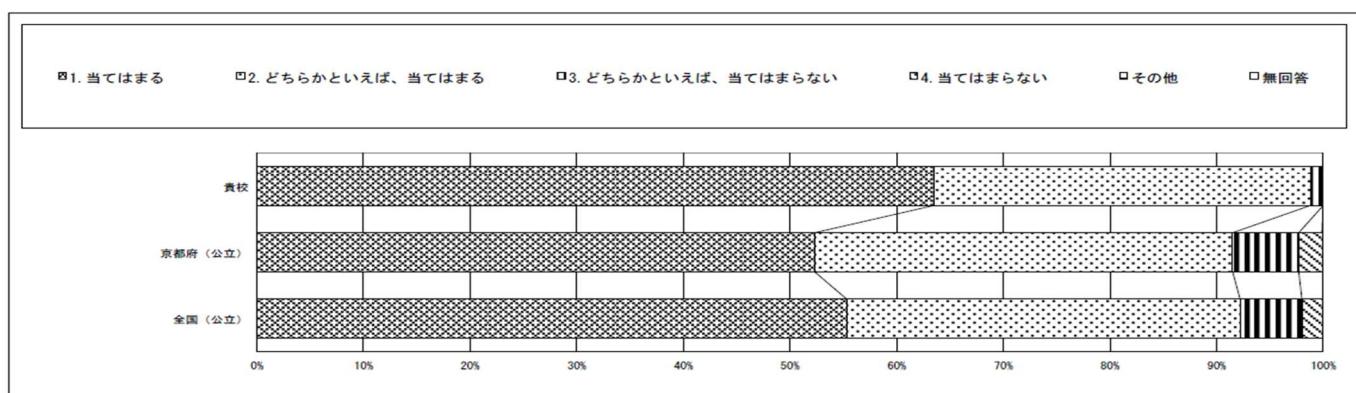


読書環境、文字に接する機会に関する調査になります。本校では、学校アンケートでもそうですが、読書の機会が大きな課題となっています。この調査からも読書の機会や文字に接する時間が少ないことがわかります。ただ、昨年度までに比べると、読書など文字に接する機会は増えていますし、今回の調査からは、二極化傾向でてきてることもわかりました。また、新聞に関してても、すこしは接する機会が増えてきました。

文字に接する機会は、環境とも関連があるかとは思います。家庭に新聞があるかどうか、家庭でのいろいろな本に触れることができる機会はあるかどうか。学校では、上記の課題を踏まえて、毎朝の読書の時間の確保や図書室の利用機会、あるいは新聞に関する情報提供、学級や学年によっては、スピーチに新聞記事などを活用することも行っています。図書室にも子ども新聞を置くなど接することのできる機会をつくることで、文字に接する機会は増えているのかもしれません。

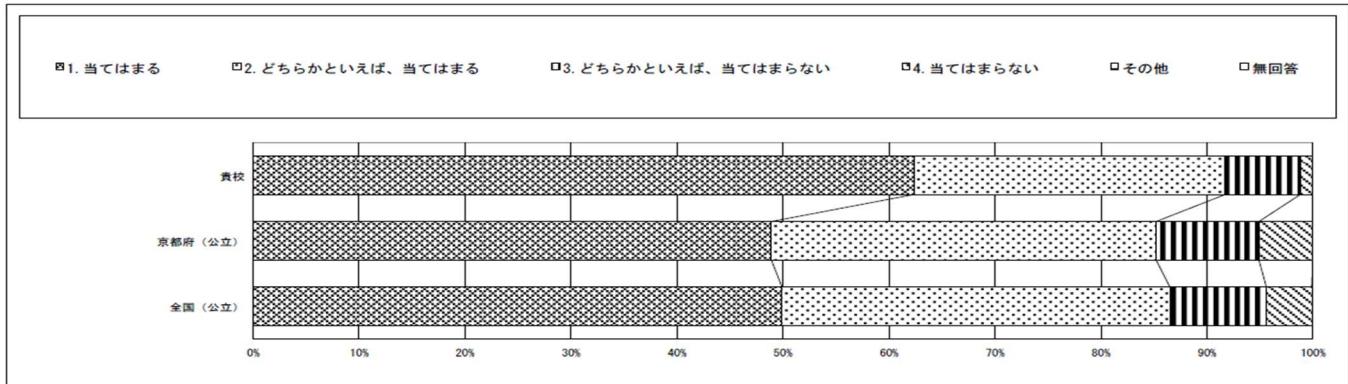
環境や機会は大きな影響なのかもしれません、まだまだ、読書が好き、というのが少ないので残念なところです。

## Q 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

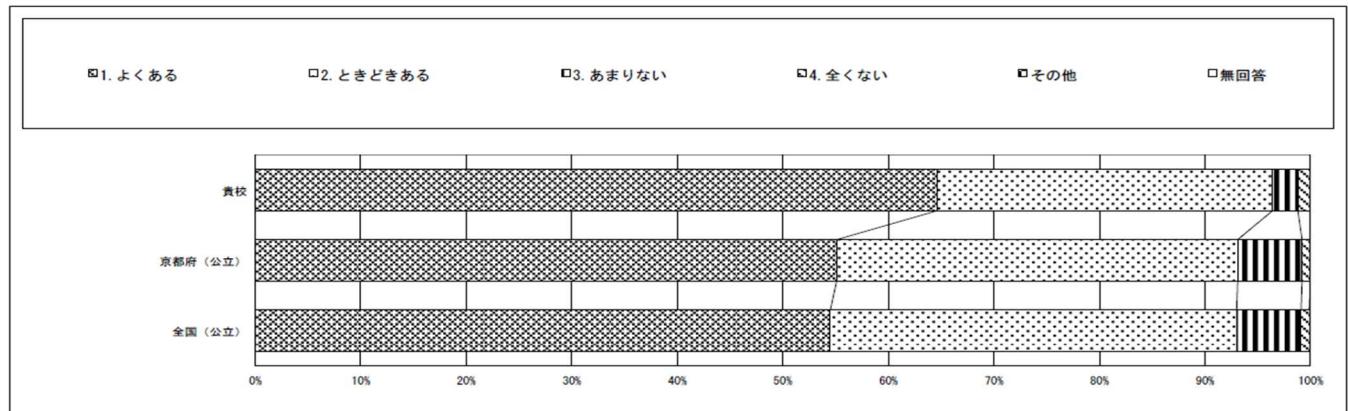


子どもと教職員との関係を示しているかと思います。子どもにとって、先生が受け入れてくれているという結果であり、よりよい関係が築けているととらえます。うれしいところではありますが、ただ、全員ではありません。その点についてしっかりと受け止め、子どもの居場所づくりや関係づくりに継続して取り組んでいきたいと思います。

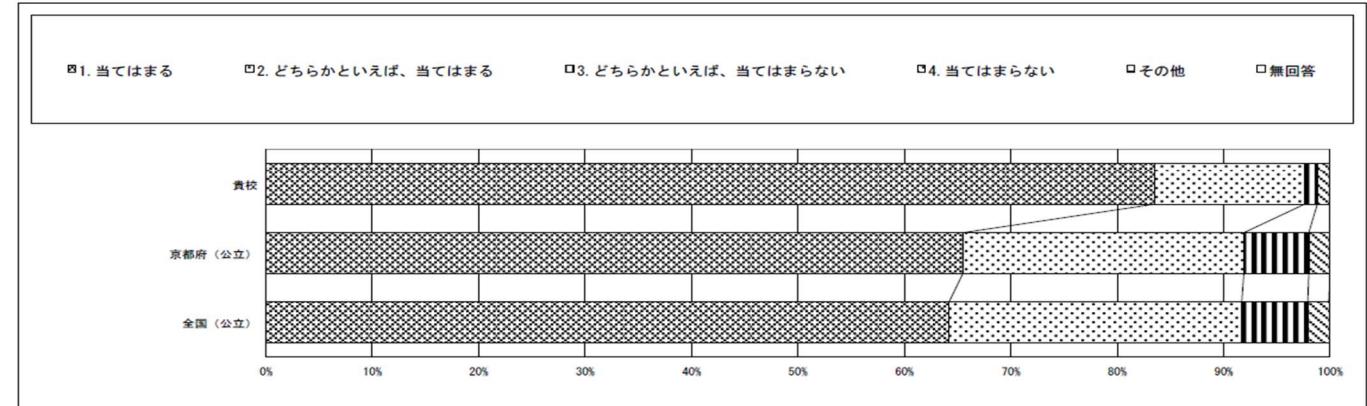
#### Q 学校に行くのは楽しいと思いますか



#### Q 友達関係に満足していますか



#### Q 普段の生活の中で、幸せな気持ちなることはどれくらいありますか。

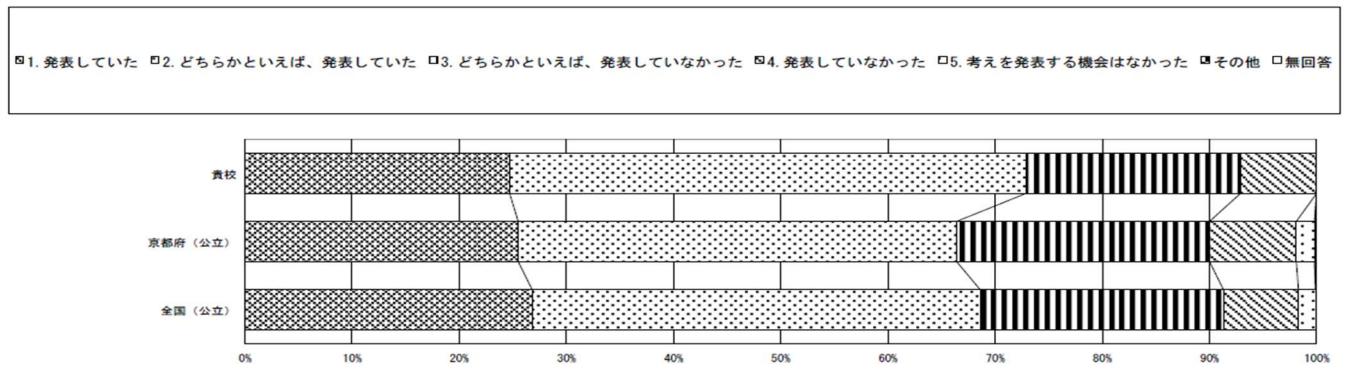


ウエルビーングに関わる内容となります。幸せな気持ちになれるかどうか、ほとんどの子どもが、学校に行くのは楽しい、友達関係に満足している様子がわかります。そして、95%の子どもは幸福感を感じていて、子どもが生活する環境はおおむね満足できることとなっています。そのことは、安心して生活することにつながっていきますし、それぞれの子どもが、学校環境の中で、しっかりと活動することや挑戦することができていると考えられます。そして、よりよい子どもの成長に寄与できていると考えられます。この結果を一つの誇りとして、引き続きよりよい学校環境を構築できるように努力していきたいと思います。

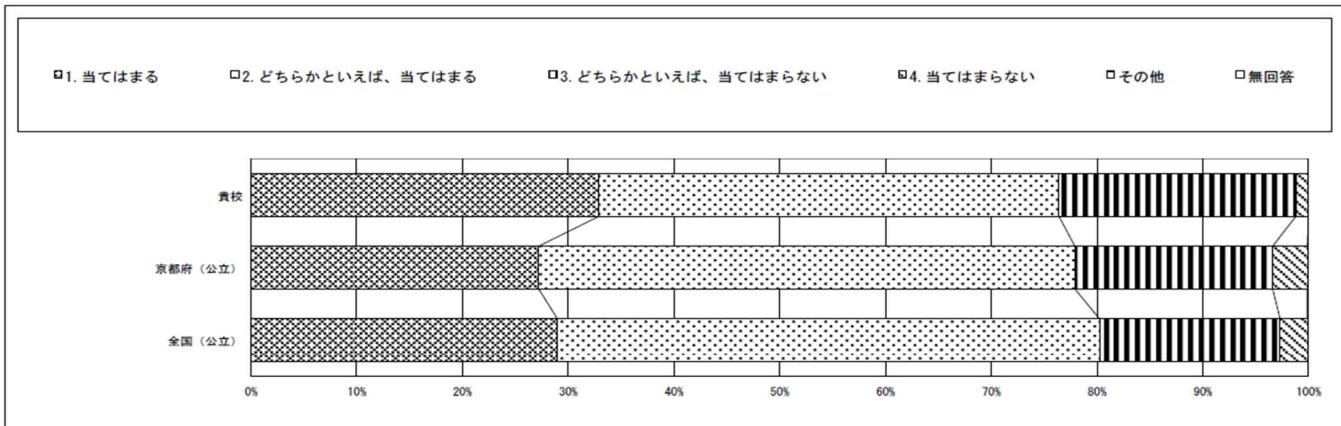
安心で安全、そして、よりよい関係づくりができるないと、よりよい学びにはつながりません。そのことは、教職員で年度当初よりしっかりと自覚して学校運営に当たっているつもりです。

しかし、忘れてはならないのは、決して全員ではないということです。わずかではありますが、友達関係にしんどい思いをしていたり、学校生活が楽しくなかったり、日々の生活の中で幸せを感じることができていない子どもがいます。この結果については、真摯に受け止めたいと思います。そのために、目の前の子どもたちの姿をしっかりととらえ、分け隔てなく寄り添い、また、保護者との連携を大切にしながら、子どもの実態をしっかりと捉えて、適切な支援ができるよう、日々の学校生活を送っていきたいと思います。

**Q 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。**



**Q 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。**



これらの内容は、これから学びで大切にしていかなければならない視点です。「自ら課題を設定し、課題解決にむけて創意工夫をしながら、取り組んでいく姿勢」や「自分が考えたことやわかったこと、思ったことなどを相手にわかるように、相手意識をもって発表していく姿勢」は、企業が求める姿でもあります。本校の教育活動も、4年前からその視点を大切にして、学習方法や授業の展開の仕方を研究し工夫し、改善しています。特に、あらゆる場面で話す聞く機会を取り入れ、自分の考えをわかりやすく伝えようとする機会や感想交流の機会、友達の考えを聞いてどう思ったのかなど、そのような時間を大事にしています。そのことが、子どもの発表機会や話す聞くことへの意欲につながってきていると考えます。

京都市全体でもそのようなことを意識して教育活動を進めていくようにしています。研究し取り組みを進めていることが、京都市全体としての安定した学力につながっているものと思われます。自らの課題設定や相手意識をもって思いや考えを交流することは、学習者が主体的に学習や活動に参加する必要があります。また、各自がしっかりと課題意識をもって、その課題を解決しよう考えたり、調べたりしたことが、自分の思いや考えにつながり、意欲的に交流活動や話し合いに参加することにつながります。その意欲的な取り組みは、主体

者としての能動的な学習につながり、学力の向上につながっていきます。また、課題を解決するための方法や学び方を獲得することにもつながり、これからの生きて働く力にもあります。

しかし、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することに、苦手意識がある児童が、一定数います。そのため、発表に対する意欲が弱いところにもつながっています。

学習課題の必然性をしっかりと与えることや課題解決することの見通しを持たせることを通して、意欲的な学習につながります。そして、交流や話し合いが、自らの知識獲得にもつながり、交流の意義や良さを感じられることで、子どもの学習意欲は自然と高まっていくものと思われます。その姿勢や意欲、まなぶ意味を獲得することができれば、子どもの学力、また、生きて働く力はますます高まっていくのではないかでしょうか。そんな支援をわれわれ大人はしていかなければならないと思っています。

### 児童質問紙・国語科・算数科・理科の分析から

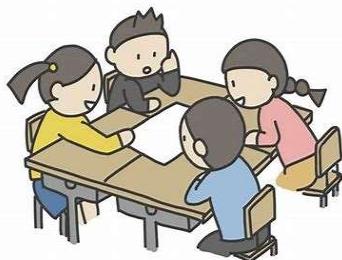
3教科とも正答率のいい結果となりました。

無回答が非常に少ないというのが本校の特徴でもあります。時間の範囲内で、最後までしっかりと問題に向き合い、答えを導き出そうとしているところが、今回の結果につながっているのかもしれません。指導者の声かけもありますが、意欲をもって学習に取り組んだり、仲間との交流を嫌がらずに取り組んだりしていることが成果となっているのではないかでしょうか。

今回、どの教科も定着率が高く、いい結果となっています。子どもの教科への意識を確認すると、今までよりも国語科に対する苦手意識が高くなっています。6割の児童が国語科の学習をあまり好きでないと答えています。逆に算数科では、6割の児童が、どちらかといえば好きと答えています。興味関心が高いと、学習の効果は高くなってくるのだと思われますが、理科に関してみてみると、8割以上の子どもがどちらかといえば好きと答えています。しかし、算数ほどの成果は表れていません。これは、実験などの楽しさが興味関心につながっているのではありますが、そのことが知識や定義といったこととむすびついていないことが考えられます。「なんでそうなるのか」という理由や考察をしっかりと根拠を明確にしていく学習が大切となってきます。そのことは、国語科に通ずるものでもありますので、結果が出ただけでなく、その理由をしっかりと言葉で説明ができるような取り組みを大事にしていかなければならないと考えています。

特に、記述式など言葉で回答を求められるような傾向の問題には弱さが見られたり、複数の資料を活用して説明したり、ある一定条件の中で回答を求められることには弱さがあります。そのような学習経験や生活経験が少ないのでかもしれません。自分の思いや考え、たとえ失敗しても、しっかりと話し切らせることや説明をしきることを大切にしていくことが必要だと思われます。いわゆる話し切らせることや聞ききらせることが大切なのでしょう。

少しづつですが、学習の成果は出ています。それは、子どもたちの学習姿勢はたいへんよくなっていることとつながっていると思っています。学習集団としても高まってきていくことが、よりよい成果となっているのでしょうか。この状況を大切にしつつ、ますます高められるように学習集団を高め、よりよい刺激を受けながら、互いの相乗効果で成果があらわれるよう努めてまいりたいと思います。



## 保護者の皆様へ

子どもの学力は、数値で表されているのがすべてではありません。また、この結果が、子どもの学力をすべて評価するものでもありません。あくまでも一側面となります。しかし、数値で表されることは、一つの目安にはなります。この結果をみて、どう評価し、判断し、生かしていくかは、子どもを取り巻く大人の姿勢ではないかと考えています。

今回は、前述したような結果と内容でした。今まで以上により正答率を子どもたちは示してくれました。学習の成果がしっかりと表れていると思われますし、これまでの学習がしっかりと積み上がってきていると思います。なにより、ここ数年、子どもの学習に向かう姿勢がとてもよくなっています。与えられた課題をしっかりと取り組むだけでなく、だれとでも分け隔てなく話し合ったり、協力したり活動することができます。また、各自が創意工夫して取り組んだことを認めあう姿など、いい雰囲気がつくられています。やはり、ことばの力や生きて働く学力は、どのような集団に属するのかで効果が変わってくるようにも思います。

入学式の式辞でお願いとしてお話するのですが、「わが子をよりよく育むには、わが子だけではなく、わが子を取り巻く周りの仲間も育てていかなければなりません」ということが学力の面でも一つの成果となっているのではないかと思うか。

しかし、今回も弱い面がしっかりと見えてきています。ここ数年課題として挙げていることは、少しずつではありますが、成果として高まってきたはいるものの、弱い面もあります。そのために、学習面だけでなく、日頃から、しっかりと子どもに話し切らせる、説明しきらせる、自分の言葉で語らせる、といったことを大切にして、子どもと関わっていただければ、ありがたいと思います。

また、何かを指導するときには、しっかりと理由や意図を説明して、子どもの行動を変えるようなかかわり方を大事にしていただければと思います。なかなか時間のかかることですが、その積み重ねが、子どもが納得して行動する主体性につながったり、しっかりと言葉の力の育成につながったりすることではないかと思っています。子どもの言葉の力を育むためには、われわれ大人も育みたいことばを使って、根拠や理由を明確にして子どもとのやり取りをしていくことが大切なのでしょう。学校でも、子どもの指導には、自分の思いや考えをしっかりと話し切らせる時間をとて、その上で、何が間違っていて、どうすればよかったですというのを、時間をかけて取り組むよう心がけています。なかなか骨の折れることかもしれませんのが、その地道なかかわりが、子どもがよりよく学んだり、よりよい成長につながったりすると考えていますので、ご家庭でも、粘り強いかかわりを継続していただければと思います。実は、そのときに、子どもと保護者の関係も深くつながっていっていると思います。

まずは、よりよい関係づくりとしての対話を大切にして、粘り強くことばで関わる意識を大切にしていただければありがとうございます。そして、よりよい子育てについて、共に考え、共に悩みながらも、共に関わっていなければと思いますので、引き続き、どうぞよろしくお願ひします。

## 最後に……

平素は、本校の教育活動にご理解、ご協力、誠にありがとうございます。

「総合評価や各教科の結果」「児童質問紙調査」「児童質問紙・国語科・算数科・理科の分析から」「保護者の皆様へ」と4つ視点で、結果の考察から、子どもへのかかわり方など表現しています。少々量の多い内容とはなっていますが、少しお時間をつくっていただき、一読いただければ幸いです。

学校での取り組み、各家庭での取り組みの連携を通して、よりよく子どもを育んでいきたいと考えています。子どもの実態から、互いの思いを交流し、どんな連携ができるのか、どんなことに焦点を当てて取り組んでいくのか、一緒に考えていければと思います。子どもの成長に関わる大人として、共に手を携えて関わっていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

京都市立川岡東小学校 校長 岡本 雅文